

Ⅱ 編集後記Ⅱ

オリンピックの開催中も、各地で紛争が絶えない不安な世相でしたが、これも現代史の一齣として冷静に捉える視点が問われていると、改めて思わずにはいられない夏季休暇となりました。

『史観』第一五九冊をお届けします。論文は東洋史・西洋史が各二本、日本史と考古学が各一本、という構成です。地域、行政機能、公共性など、主題はそれぞれ多岐にわたっておりますが、末端の事象から時代の大きな見取り図を得た力作を揃えることができました。ご寄稿下さった方々に厚く御礼申し上げるとともに、その成果を是非、味読していただければ幸いです。

また、「彙報」では今年八月、二回にわたって行われた連続講演会の要旨、ならびに去年度各専修に提出された卒業論文の中から秀作を選び、これも要旨としてまとめております。いずれも卒論の水準をはるかに上回っており、着眼点・技量の両面において今後の進展をうかがわせるに足るものです。

今回の表紙を飾る図版は時代の持つ迫真性を伝える資料を、という趣向から「佐竹義重血判起請文」（早稲田大学図書館所蔵）です。また、編集については日本史学コース助手の西尾さんに細かなところまで配慮していただきました。

なお、本号に掲載いたしました通り、今年の四月、長年にわたって研究・教育の双方から日本史学専修を牽引して下さった由井正臣先生がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

（鶴見 太郎）

執筆者紹介（掲載順）

久保健一郎 早稲田大学文学学術院准教授

渡邊将智 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

深澤貴行 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

河野淳 早稲田大学文学学術院、駒澤大学非常勤講師

佐藤剛 早稲田大学文学学術院非常勤講師

車崎正彦 早稲田大学文学学術院非常勤講師

平成二十年九月二十日印刷
平成二十年九月二十五日発行

史観

第百五十九冊
定価 一千円

編集者 深谷克己

印刷所 株式会社 白峰社
発行所 早稲田大学史学会

東京都新宿区戸山一―二四―一
電話東京(三三〇三)四一四二番
振替〇〇一九〇―八一―四六二九